

教育長 年頭所感



教育長 塩澤 雄一

心つなぐ挨拶

新年あけましておめでとうでございます。皆様も、そして子どもたちも健やかに、よい年を迎えたことと存じます。

お正月の風物詩に、町の至る所で交わされる新年の挨拶があります。私は子ども頃この挨拶が苦手でしたが、「あけましておめでとうでございます。今年もよろしくお願ひします。」と言えないと親にも親戚にもお年玉がもらえないので、頑張つて声を出したことを思い出します。

最近、何人かの方から「このごろの小中学生はよく挨拶ができて、われわれ大人も見習わなければ」といったうれしいお褒めの言葉をいただきます。

かつしかつ子宣言の「あいさつで心をつなぎます」を各学校で実践し、児童会や生徒会、地区委員会の方々の協力も得て、あいさつ運動を展開している学校や地域があります。

求められるコミュニケーション能力

現代は人と人とのつながりが希薄になり、子どもの社会性が育ちにくい時代と

言われています。オリンピックで、3年後には東京に多くのの人々を迎えます。子どもたちに豊かなコミュニケーション能力を育むとともに、あらゆる人と協力して困難な問題にも立ち向かっていく力をつけなければなりません。

この夏、中学生をオーストラリアに派遣しました。初めてのホームステイでなかなか相手方の家庭に溶け込めなかった時、勇気を出して「食事の片づけ手伝います」と伝えたことをきっかけに、その家族と心が通じ、打ち解けることができた報告してくれた中学生がいました。

私たちの生活の中でも、とつつきにくい人だが、話してみると馬が合い、急に親しくなった、といった経験はないでしょうか。

関わる力を育てる学校

今学校では、人と関わる力の育成に力を入れています。小中学校の授業も、教師の一方的な講義形式から、教師の質問に答えたり、グループで相談して考えをまとめたりといった授業に変えてきています。こうしたことで思いを伝える言葉の力をつけることや相手の思いを理解する力、思いやる心を育てることができるようになります。

ある教育学者は「幼稚園の卒業要件は、仲間と一緒に楽しく遊べたかだ」と言っていました。そして、小学校時代は「良いも悪いも、できるだけ多くの子と関わることだ、そして善悪の判断が自分でできる力をつけることだ」とも言っています。

学校は、教師からも友人からも集団で学び合う場です。多くの人の考え方や感じ方から学び、成長とともに、親友や人生の師に出会っていくのです。

挨拶はかつしかつ子の誇り

挨拶は人と知り合うきっかけです。目と目が合い、顔を覚え会話を交わし、心がつながるのです。そして、子どもにとつて多くの人と知り合い、関わることは、様々な学びにつながり、その子の幸せにつながります。困ったとき、つらいとき、心の支えになるのは、家族であり、友人であり、教師であり、地域の人々であつてほしいと願っています。

私たちが暮らす下町葛飾は、人情厚く、人とのつながりの強い地域です。今、葛飾の子どもたちが健全に力を伸ばしているのは、家庭、地域と学校が協働して子どもの育ちに関わってくれているからです。ありがとうございます。

私も、子どもたちに力をつけ、誇り高きかつしかつ子を育てるために、今年も力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

杉浦 容子氏の任期満了に伴い、28年12月24日付で、齋藤初夫氏が教育委員に就任されました。

その他の教育委員会の議案・報告事項等については、葛飾区ホームページ <http://www.city.katsushika.lg.jp> をごらんください。



教育委員 大里 豊子



教育委員 天宮 久嘉



教育委員 塚本 亨



教育委員 齋藤 初夫



教育長職務代理人 日高 芳一